

令和2年度 事務点検・評価報告書

目 次

◆ 教育委員会の点検・評価制度の概要	1
◆ 評価委員の点検・評価	2
◆ 教育委員会の活動状況及び活動概要	7

【学校教育課】

◇ 道徳心の高揚	11
◇ 豊かな心の育成	12
◇ 確かな学力の育成	13
◇ 健やかな体の育成	14
◇ 生徒指導体制の確立	15
◇ 安全教育の推進	16
◇ 坂町学びのアンケート結果	17

【生涯学習課】

○ 地域文化の保存、継承	19
○ 生涯学習環境、生涯学習推進体制の充実	20
○ 生涯スポーツの推進	21
○ ウォーキングの推進	22
○ 生涯学習施設の有効活用	23

教育委員会の点検・評価制度の概要

1 点検評価の趣旨

平成 20 年 4 月から地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、その権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を行い、その結果を議会に報告するとともに、公表することが義務付けられた。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 対象年度

令和 2 年度

3 点検・評価の対象事業

点検・評価の対象は、坂町長期総合計画並びに教育行政方針に準ずる各事業の経営目標を定め、各事業の取組等について点検・評価を行う。

4 点検評価の方法

点検評価は、各事業で評価指標等を設定し、次の評価基準に従って評価する。

区分	内 容
A	目標値：+10ポイント以上
B	目標値：±10ポイント未満
C	目標値：-10ポイント以下・-19ポイント以上
D	目標値：-20ポイント以下

※ただし、事業によっては、別に評価基準を定める。

評価委員の点検・評価

はじめに

令和2年度の教育委員会事務点検・評価においては、評価委員へのヒアリングを実施している。このヒアリングにおいて、評価委員は「4 点検評価の方法」について説明を受けるとともに、【令和2年度 点検評価票】について詳細な説明を受けて、質疑応答を行った。とりわけ、各点検評価票をめぐっては、「4 成果と課題・改善策」について率直な意見交換を行った。その際には、坂町の取り組む重要施策の成果が、現在のおかれた困難な状況を踏まえて実施された結果であり、その課題認識が示されているのか、また、それを受けて令和3年度に向けての改善策となっているのかといった点を大切に意見交換した。その際に、評価委員が坂町の「現在のおかれた困難な状況」として特に意識したのは、平成30年の西日本豪雨被害を踏まえた取組であり、また新型コロナウイルス感染防止対策の進捗状況を踏まえた視座への配慮である。

なお、「教育委員会事務自己点検・評価」の評価結果の妥当性及び改善策の有効性については、ヒアリングにおいて意見交換することを通して修正点を確認した。その結果、本報告書においては、これまで用いてきた評価指標である「B：評価は妥当である。」とともに「B：改善策は有効と考えられる。」以上となるように修正されていることを確認することができた。

評価指標

区分	評価の妥当性：改善策の有効性
A	評価は極めて妥当である。：改善策は極めて有効と考えられる。
B	評価は妥当である。：改善策は有効と考えられる。
C	評価は妥当とはいえない。：改善策は有効と考えられない。
D	評価は全く妥当といえない。：改善策は全く有効と考えられない。

(1) 「道徳心の高揚：『礼節』を基本とした教育の推進」について

昨年度に引き続き、令和2年度においても小学校・中学校ともに9割以上の肯定的な回答が維持されており、評価することができる。『坂町道徳教育推進協議会』を中心とした『坂町礼節週間』への取組や『考え、議論する道徳』の授業改善を積極的に推進できていることが指摘されている。坂町における道徳教育推進のこれまでの成果を継続できるよう、改善策に指摘するよう、「今後も、坂町礼節週間や道徳参観日の開催、道徳ノート・学校通信等の取組を進め」、コロナ禍にあっても、保護者・町民を巻き込むことができるよう、各学校の取組等を発信し続けて欲しい。そして、児童生徒を主人公とした坂町独自の有効な手立ての特定・集中すべき取組について継続して取り組んでほしい。

(2) 「豊かな心の育成：郷土愛の醸成・グローバル化教育の推進」について

昨年度の点検評価においては、「西日本豪雨の被害を自分事として捉えることを風化さ

せることなく、新型コロナウイルス感染防止の取組も自分事と捉え、家庭や地域を巻き込み、町をあげての取組となるよう期待したい」と指摘した。令和2年度の取組においては、「新型コロナウイルスの影響で多くの地域行事等が中止されたが、総合的な学習の時間や防災教育等で郷土に係る学習を積み上げている」ことが報告されている。コロナ禍での授業展開の困難な状況を克服するようなアイデアとして、「今後、ICTを効果的に活用した授業づくりを含め、授業の改善・工夫に努め、さらに郷土愛の醸成及びグローバル化教育の推進を図る」ことに大いに期待したい。

(3) 「確かな学力：基礎的・基本的な知識・技能の定着」について

「確かな学力の育成」にあたっては、「児童生徒一人一人の課題や取組方針等を分析し、積極的な授業改善及び個に応じたきめ細かな指導を行った成果」とともに、「学年別では、小2・小4の平均値が全国平均値を下回っており、低学年からのつまずきや課題を明確にし、課題解決が求められる」ことが指摘されている。ここにはさらなる高みを目指すよう、令和3年度における教育委員会としての取組支援（「小学校低学年段階からの学ぶ喜びサポート校事業」でのサポート教員の配置）が表明されている。昨年度も指摘したところであるが、「確かな学力」を身に付ける主人公が児童生徒であることを尊重した改善策となるよう支援の在り方を提案し、それに係る財政的な裏付けを確保できるように、首長部局により一層積極的にアピールしていただきたい。

(4) 「健やかな体の育成：体力・運動能力の向上」について

昨年度は「年度対象児童生徒に特有の傾向ではなく、体力・運動能力向上の取組施策の反映された成果であるのか検証を積み重ねていただきたい」と指摘した。その点では、『『体力づくり改善計画』を活用した授業づくりや運動の日常化、部活動（中学校）の充実が、児童生徒の運動好きの増加や運動に対する意欲の向上につながっている』ことが成果として述べられており評価できる。令和3年度では「今後、1人1台のタブレット端末を活用し、自己目標の設定や記録への挑戦など、視覚化による意欲のさらなる向上に取り組み、体力・運動能力の向上を図る」とされるところであり、昨年度指摘した「体力向上推進リーダー」の人的措置の継続に係る財政的な裏付けを確保できるよう首長部局により一層積極的にアピールし、今後の取組に大いに期待したい。

(5) 「生徒指導体制の確立：積極的生徒指導の充実」について

いじめ問題の未解決件数が昨年度に引き続き0件であることや、規範意識や自己肯定感に関するアンケート結果では、肯定的回答が高い割合であるなかで、さらに割合が増加していることは評価できる。不登校の児童生徒数の増加も抑えられて、生徒指導の三機能を生かした予防的積極的な生徒指導の取組の成果が窺える。改善策については、「今後の感染状況を踏まえ」「可能な限り授業や部活動、各種行事等の教育活動を継続」するために、引

き続き教育委員会としてどのような施策として展開するのか、その「見える化」に努め、「教員の働き方改革」とあわせて情報発信にも努め、「児童生徒の健やかな学びを保障すること」に大いに期待したい。

(6) 「安全教育の推進：防災教育の充実」について

「平成30年豪雨災害の経験や教訓を生かした防災教育の実施やハザードマップの作成、マイタイムラインを活用した取組により、9割以上の児童生徒が肯定的な回答をした」ことを風化させないことを今後も期待したい。また、「新型コロナウイルス感染拡大による臨時休業の影響」にもかかわらず「学校生活における感染予防対策等の取組」が功をそうした点については児童生徒に継続して自覚化できるように取り組んで欲しい。「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」(県)の指定事業を活用しての「防災教育」の推進に、児童生徒に自分事と捉え「自他の命を守り抜くために必要な判断力・行動力」を育成する視点が育つよう、昨年度も指摘した点ではあるが、保護者・地域住民を巻き込んで「自助」と「共助」の精神を育むための取組となるよう、教育委員会の「公助」の視点を検討することを期待したい。

(7) 「地域文化の保存、継承：坂町の歴史や文化に対する理解と関心の醸成」について

新型コロナウイルスの影響で多くのイベントが中止されるなか、開催できたイベントのアンケート結果の肯定的回答割合は目標値を上回っている。昨年度の取組における改善策において指摘されていた「新規参加者を増やす取組」「広く意見を求め設置できる場所等を再検討」などの継続に、コロナ禍のなかでの「小中学生と自主グループとの交流」の在り方や、「Web配信等、コロナ禍におけるイベントの在り方」についての検討を期待したい。そして、そのなかでは、昨年度も指摘したように、生涯学習者である町民を主人公にする視点が活かされることを期待したい。

(8) 「生涯学習環境、生涯学習推進体制の充実：図書館サービスの向上」について

「新型コロナウイルスの影響」で図書館サービスについては、全国的に低調であり、坂町においても多くの事業の中止や閉館日数の増加など、本来の状況には届いていないことはやむを得ないことと判断できる。そのようななかでも、「入館者数100万人の達成」「100万人目の来館者への記念品授与式」「広報や新聞への掲載」など、図書館について広く情報発信できたことは評価したい。また、改善策に挙げているように、「豪雨災害以降の入館者の減少やコロナ禍における『新しい生活様式』により生ずる課題等を踏まえ、各種事業の内容を精査すること」「Web配信を実施する等の状況に応じた新たな取組の創出及び工夫・改善を図ること」「ネット予約サービス(令和2年度)や電子図書の活用など情報環境の利便性の向上を広く住民に周知し読書活動の推進に努める」ことについて大いに期待したい。その際、昨年度までも指摘したが、図書館の活動が図書館に留まるのではなく、「学習

機会の提供」における「講座内容」と連携して図書館情報を提供するなど、生涯学習者へのサービスも引き続き検討され、学校図書館とのネットワーク化を推進して「学校教育」において重点的に取り組んでいる「道徳心の高揚」や「郷土愛の醸成・グローバル化教育の推進」の事業とも連携して展開していく視点も大切にしていきたい。

(9) 「生涯スポーツの推進：生涯スポーツ社会の実現」について

新型コロナウイルスの影響で中止を余儀なくされた事業も多いなかでも、「感染リスクも低い」「消毒や三密等の感染対策を講じる」ことができた事業を実施できた経験を踏まえ、「今後も続くコロナ禍において、町民の健康を考えながら開催できる方法を模索」し続けていくこと、「ホームページやFacebook等にもスポーツイベントの開催案内を掲載するなど、積極的な情報発信」に努めることに、大いに期待したい。その際、昨年度までも指摘したところであるが、西日本豪雨の被害のなか、町民を勇気づける取組に取り組んだ経験を生かし、今後も事業充実に努めて生涯スポーツの推進の施策が、坂町の保健・医療・福祉など、他部局とも結ばれて展開されることを期待したい。

(10) 「ウォーキングの推進：『坂町悠々健康ウォーキング大会』の充実」について

坂町の「生涯スポーツの推進：生涯スポーツ社会の実現」という中期・短期経営目標にあって、令和2年度から特色ある事業として、経営目標に挙げられており、坂町といえど「ウォーキング」を印象づけるものと評価できる。残念ながら、大会は「新型コロナウイルスの影響」で中止となったが、令和2年度において開催中止に至るまでの過程で検討してきた「取組・方策」を踏まえて、「ウォーキング大会の開催の在り方や新しい魅力的なイベント等について、実行委員会や関係団体、関係各課等と検討・協議を行う」ことを期待したい。

(11) 「生涯学習施設の有効活用：町民交流センターの活用促進」について

避難所開設や新型コロナウイルスの影響などで、施設利用人数は目標値を大きく下回ったものの、Facebookのアクセス数は順調に増加し、目標値より31ポイント上回っている。ここに、コロナ禍における「生涯学習施設の有効活用」に向けてのヒントがあるであろう。その点で、地域に密着した開かれたホールを目指した取組や坂町内外への情報発信という地道に取り組まれ、町民交流センターが坂町の生涯学習推進のシンボルとなるよう、その利用にかかる施策や取組に一層期待したい。

おわりに

以上、各項目に即して点検評価の結果に基づいて意見を述べた。最後に、報告書全般に関わって意見を述べ、今後期待したい点について指摘したい。

坂町における「教育委員会事務自己点検・評価」は充実した自己点検評価が継続されるな

かで、さらなる発展が期待される。平成 30 年度の西日本豪雨災害や新型コロナウイルス感染防止の取組の困難さを踏まえ、坂町に住まう・憩う・働く人々の大切にしてきた価値に注目して優先順位をもって取り組まれてきていることに敬意を表したい。そして、点検評価の結果が、町民における学校教育・生涯学習の充実に向けて、町民と「ともに」より一層の改革・改善につながるための工夫に引き続き尽力していただきたい。

そのため、第一に、成果指標（アウトカム）としての視点から評価に至ったエビデンス（証拠）に掲げる数値目標の設定について点検と精緻化を図っていただいているところであるが、これまでも指摘してきたように、量的に示された数値目標を補って、質的にどのように変容したのかを分析し、事業の目標に対して有効な施策であったかについて検証していかれることを引き続き期待したい。第二に、教育委員会の事業実施にあたっては町の他部局の事業との関連性をもって展開できているかについて意識して取り組んでこられた点を活かして、引き続き、町民の学校教育・生涯学習の推進に寄与できる取組・方策の充実を努めていただきたい。その際には、それらの事業実施にあたって、町民を単なる「お客さん」に位置づけることなく、「主人公」である町民と「ともに」ある事業の実施となっているかどうかを常に意識していただきたい。

最後に、説得力のある自己点検評価報告書が、坂町住民の共有財産となるよう、これまで同様に、次の点には引き続き期待したい。第一に、坂町独自の特色をもつ事業施策について点検評価して町民に積極的に情報発信し、町民が主人公となる事業施策であることをアピールして欲しい。第二に、学校教育の充実について、設置者としての事業展開が学校現場による真摯な取組を通じて実現できることを踏まえ、設置者の視点を明確にした具体的な支援策をもって学校現場の支援の充実により一層努めて欲しい。

坂町教育委員会事務局には、そのような期待に応えていただき、首長部局に対して財政的な裏付けを確保して、教育委員会の事業展開における P D C A サイクルを実働させ、学校教育・生涯学習の主人公である学習者の支援に、また、その学びを支える教員をはじめとする指導・支援者の支援に、今後も引き続き努められることを一層期待したい。

【評価委員】

広島大学 名誉教授 林 孝

教育委員会の活動状況及び活動概要

1 教育委員会の活動状況

(1) 教育委員会委員

教育委員は、町長が議会の同意を得て任命した教育長及び4名の委員により構成する。令和3年3月31日現在の教育委員は、次のとおりである。

職名	氏名	性別	任期
教育長	太田 耕樹	男	令和2年4月1日～令和5年3月31日
教育長職務代理者	松村 英勝	男	令和元年12月17日～令和5年12月16日
委員	埜本 友造	男	令和2年12月5日～令和6年12月4日
委員	平沖 純子	女	平成30年4月1日～令和4年3月31日
委員	向井 智恵	女	平成31年4月1日～令和5年3月31日

(2) 教育委員会会議の開催状況 定例会 12回

(3) 教育委員会会議での審議状況 議決の状況（令和2年度） 17件

番号	議案名	可決日	備考
10	令和2年度教職員研修の方針について	4月22日	
11	坂町立学校の教職員の業務量の適切な管理等に関する規則の制定について	4月22日	規則
12	坂町スポーツ推進委員の委嘱について	4月22日	
13	坂町社会教育委員の委嘱について	4月22日	
14	令和元年度坂町教育委員会事務点検・評価報告書について	5月19日	
15	令和2年度坂町教育委員会経営計画・主要施策について	5月19日	
16	令和3年度使用教科用図書採択基本方針について	5月19日	
17	令和3年度使用小学校用教科用図書採択について	8月17日	
18	令和3年度使用中学校用教科用図書採択について	8月17日	
19	学校における働き方改革取組方針（令和2年度～令和4年度）について	11月13日	
1	坂町学校運営協議会規則の制定について	1月19日	規則
2	坂町立中学校部活動指導員設置要綱の制定について	1月19日	訓令1号
3	坂町私立幼稚園就学奨励費補助金交付要綱の廃止について	1月19日	訓令2号
4	令和3年度坂町教育行政方針について	2月9日	
5	令和3年度小中学校県費負担教職員人事について	3月15日	
6	坂町学校運営協議会要綱について	3月15日	訓令3号
7	坂町社会教育委員の委嘱について	3月15日	

(4) 議案以外の報告・協議状況

月 日	定例会における報告・協議内容
4 月 22 日	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナ感染対策について ○坂町教育委員会事務局事務分掌について ○令和元年度坂町教育委員会事務点検・評価報告書について ○令和2年度坂町教育委員会経営計画（案）、令和2年度坂町教育委員会自己評価表（案）について ○坂町立町民交流センター自主グループ活用要綱の制定について(訓令7号)
5 月 19 日	<ul style="list-style-type: none"> ○令和2年度第2回広島県市町教育長 Web 会議について
6 月 16 日	<ul style="list-style-type: none"> ○第1回安芸郡教科用図書採択地区協議会について ○議会全員協議会（6月2日）について ○6月議会定例会について
7 月 14 日	<ul style="list-style-type: none"> ○7月臨時議会（7月2日・7月17日）について
8 月 18 日	<ul style="list-style-type: none"> ○令和2年度第2回広島県市町教育長会議 ○令和2年度第3回広島県市町教育長会議 ○8月産業文教委員会（8月7日）について
9 月 15 日	<ul style="list-style-type: none"> ○町制施行70周年グッズの贈呈について ○9月議会定例会について
10 月 20 日	<ul style="list-style-type: none"> ○学校訪問・教育長ミーティングについて ○二宮金次郎除幕式について ○町制施行70周年記念式典について ○小屋浦みみょう保育園竣工式について ○坂町学校施設トイレ整備事業について ○GIGA スクールについて ○図書館空調の進捗状況について ○第5次長期総合計画（案）パブリックコメントについて ○表敬訪問「けん玉 秋の祭典2020～in東京」について
11 月 13 日	<ul style="list-style-type: none"> ○広島県市町教育長会研修会について ○コミュニティ・スクール坂町版について ○令和3年度坂町教育行政方針及び坂町教育委員会経営計画について ○議会全員協議会（11月6日）について ○町立図書館入館100万人達成に係るセレモニーについて
12 月 15 日	<ul style="list-style-type: none"> ○坂町立中学校部活動指導員設置要綱について ○坂町学校運営協議会規則について ○12月議会全員協議会（11月30日）について ○12月議会定例会について ○令和3年度坂町教育行政方針・坂町教育委員会経営計画について

1 月 19 日	○令和 2 年度市町村教育委員会オンライン協議会 (Web 会議) ○専決処分「坂町学校施設トイレ整備工事請負契約の変更」について ○令和 3 年度坂町教育行政方針について ○坂町学校運営協議会要綱について
2 月 9 日	○令和 2 年度第 4 回広島県市町教育長会議 (Web 会議) ○今後の人事の日程について
3 月 15 日	○令和 3 年度人事の内示日程について ○令和 3 年度経営計画・主要施策の概要 (案) について ○「NHKのど自慢」について

2 教育委員の活動概要

(1) 各種会議への出席

会 議 名	出席者	実施月日	開催地	備考
安芸郡教育長会議	教 育 長	※中止	海田町	
令和 2 年度第 1 回広島県市町教育長会議 (Web 会議)	教 育 長	5 月 7 日	坂 町	
令和 2 年度第 2 回広島県市町教育長会議 (Web 会議)	教 育 長	5 月 18 日	坂 町	
第 62 回全国町村教育長会定期総会並びに 研究大会	教 育 長	※中止	東京都	書面
第 63 回広島県町教育長会定期総会	教 育 長	※中止	広島市	書面
令和 2 年度第 1 回広島県女性教育委員 グループ総会	女 性 教 育 委 員	※中止		書面
令和 2 年度第 1 回広島県町教育長会議 (Web 会議)	教 育 長	6 月 15 日	坂 町	
令和 2 年度第 1 回広島県町教育長会議	教 育 長	7 月 30 日	広島市	
令和 2 年度第 3 回広島県市町教育長会議	教 育 長	7 月 30 日	広島市	
第 13 回中国地区市町村教育委員会連合会 研修大会	教 育 長 教 育 委 員	※中止		
令和 2 年度中国五県町村教育長会研究 大会	教 育 長	※中止	島根県	

令和2年度第2回広島県女性教育委員 グループ総会	女性 教育委員	※中止		
令和2年度広島県市町教育委員会教育 委員研修会	教育委員	※中止	広島市	
令和2年度広島県町教育長会研修会	教育長	11月6日	世羅町	
令和2年度市町村教育委員会オンライン 協議会（Web会議）	教育委員	12月23日	坂町	
令和2年度第4回広島県市町教育長会議 （Web会議）	教育長	1月22日	坂町	

※中止 … 新型コロナウイルス感染拡大防止のため

(2) 教育委員の学校等訪問

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため訪問しなかった。

(3) 教育委員の社会教育施設等訪問

災害復旧に係る「北新地運動公園」の視察を行った。(令和2年10月20日)

令和2年度 点検評価票

中期経営目標	道徳心の高揚
短期経営目標	「礼節」を基本とした教育の推進

1 具体的なねらい

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うとともに、「考え、議論する道徳」の授業を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育成する。

2 取組・方策

- (1) 「礼節」を基本とした教育を推進
教職員と児童生徒間及び児童生徒相互の信頼関係を構築し、発達段階を踏まえた丁寧な指導を教育活動全体を通して粘り強く繰り返し実践する。
- (2) 坂町道徳教育推進協議会の開催（4回／年）
本協議会で研究を深め、道徳的な課題を児童生徒一人一人が自分自身の問題と捉え、「考え、議論する道徳」への授業改善を図る。
学校・家庭・地域との連携・協力を大切にするとともに、「坂町礼節週間」「道徳参観日」を積極的に情報発信し、相互交流の場を設定する。
- (3) 道徳教育推進教師を中心とした取組
道徳教育推進教師を中心とし、時と場に応じた挨拶や言葉遣いのできる「礼儀」、立場をわかまえ、よく考えて行動する「節度」を全ての教育活動で育成する。

3 評価指標・目標値・実績値・評価

評価指標	目標値	実績値	評価
○坂町学びのアンケート調査(1年目) (過去3年間の平均値比較) ※アンケート内容：17・18頁参照	○肯定的な回答の割合 ・小学校：94.7% ・中学校：96.6% 【参考数値】	○肯定的な回答の割合 ・小学校：93.1%(-1.6) ・中学校：98.4%(+1.8)	A

※評価方法①…A:目標値と同等、B:-10ポイント未満、C:-10ポイント以下・-19ポイント以上、D:-20ポイント以下

4 成果と課題・改善策

- アンケートの調査結果では、小学校は目標値（参考数値）比較 1.6ポイント下回り、中学校は 1.8ポイント上回った。小・中学校とも9割以上の肯定的な回答が近年維持されている。
- 成果が維持されている要因として、「坂町道徳教育推進協議会」を中心とした「坂町礼節週間」への取組や「考え、議論する道徳」の授業改善を積極的に推進できていると考える。
- 「坂町道徳教育推進協議会」を計画どおり4回実施できたが、新型コロナウイルスの影響で道徳参観日の実施ができず、道徳教育の取組を保護者や地域に発信することはできなかった。
- 「礼節」を基本とした教育を推進するため、今後も、坂町礼節週間や道徳参観日の開催、道徳ノート・学校通信等の取組を進める。コロナ禍における参観日の開催方法について工夫し、各学校の取組等を保護者や地域に発信する。

令和2年度 点検評価票

中期経営目標	豊かな心の育成
短期経営目標	郷土愛の醸成・グローバル化教育の推進

1 具体的なねらい

郷土を愛し、進んで郷土の発展に努める態度を育成する。また、異なる文化や価値観を理解し、国際社会の平和や発展に貢献する態度を育む教育を推進します。

2 取組・方策

(1) 「地域とともにある学校づくり」の推進

地域の人的・物的資源の活用、社会と共有・連携しながら、地域と一体となって子供たちを育む「地域とともにある学校づくり」を推進する。また、地域行事や活動、文化等に興味をもち、それを大切にすることを通して、郷土を愛する心の醸成を図る。

(2) 坂町外国語教育研修の開催

教職員の英語力・実践的指導力の向上を図るとともに、経験の異なる教員が互いに学び合う授業実践研修を充実させる。(3回/年)

「ミート・ザ・ワールド・イン・サカ(グローバル・キャンプ)」を開催し、英語で外国人と交流する体験活動の機会を提供することにより、英語でのコミュニケーションを図ろうとする態度や能力の育成を図るとともに、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育成する。(1回/年)

(3) 外国語推進リーダー・外国語活動講師の配置

外国人外国語活動講師や日本人外国語活動講師、小学校専科教諭(外国語推進リーダー)、充実したスタッフを配置し、連携を密にしながら子供たちの英語による表現力の向上、英語を用いたコミュニケーション力を育む活動を充実させる。

3 評価指標・目標値・実績値・評価

評価指標	目標値	実績値	評価
○坂町学びのアンケート調査(1年目) (過去3年間の平均値比較) ※アンケート内容:17・18頁参照	○肯定的な回答の割合 【参考数値】 ・小学校:64.8% ・中学校:51.2% ※質問紙調査3年平均(全国学力)	○肯定的な回答の割合 ・小:80.0%(+15.9) ・中:88.9%(+37.7)	A

※評価方法①②…「基準評価」

4 成果と課題・改善策

○肯定的な回答が小学校で15.9ポイント、中学校では37.7ポイント目標値(参考数値)を上回った。

○郷土愛については、新型コロナウイルスの影響で多くの地域行事等が中止されたが、総合的な学習の時間や防災教育等で郷土に係る学習を積み上げている。また、例年子供たちが楽しみにしている行事や活動など、やりたいことができない環境が、逆に郷土や地域を見つめなおすきっかけとなり、郷土愛の醸成につながっているのではないかと推測する。

○外国語推進リーダー等の専門的な知識・技能を有する講師を配置し、生きた英語を直接体験することで、子供たちの英語による表現力の向上や教職員の授業力の向上につながった。

○コロナ禍における授業の展開では、声を出して発音する学習や積極的なコミュニケーションによる体験活動等が制限され、授業展開が困難な状況であった。

○今後、ICTを効果的に活用した授業づくりを含め、授業の改善・工夫に努め、さらに郷土愛の醸成及びグローバル化教育の推進を図る。

令和2年度 点検評価票

中期経営目標	確かな学力の育成
短期経営目標	基礎的・基本的な知識・技能の定着

1 具体的なねらい

基礎・基本的な知識や技能の定着を図り、加えて学ぶ意欲や自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力を育成する。

2 取組・方策

- (1) 坂町教育フォーラムの開催 (2回/年)
町内全教職員で坂町教育の方針や方向性を共有し、外部の有識者等を招聘した専門性の高い研修を実施することで、各学校の課題解決や坂町教育の研究を深める。
- (2) 『『育ちと学びをつなぐ』幼保小連携教育の推進事業』(県)の充実
町内の小学校と保育園、こども園との連携を密に行い、円滑な接続から個に応じたきめ細かな指導に努め、低学年からの基礎的・基本的な内容を確実に身に付ける。
- (3) 坂町標準学力調査の実施
町内の全児童生徒を対象に学力調査を実施し、その結果を分析するとともに一人一人の課題や取組方針等を明確にする。また、積極的な授業改善及び個に応じたきめ細かな指導を行い、コロナ禍においても児童生徒の学習機会を保障する。

3 評価指標・目標値・実績値・評価

評価指標	目標値	実績値	評価
①基礎学力の定着・向上 ○全国学力・学習状況調査 (全国平均値との比較) ・小学校：国語、算数 ≪調査対象：小6≫ ・中学校：国語、数学 ≪調査対象：中3≫	①全国平均値 (実施年度数値) ・小学校 (国語、算数) ・中学校 (国語、数学)	①新型コロナウイルスの影響で調査中止 ≪参考≫ ◆坂町標準学力調査：全国平均値比 ・小6：国(+2.1)、算(+0.9) ・中3：国(+4.1)、数(+3.3) 英(+6.5)	— (B)
②主体的な学びの充実 ○坂町学びのアンケート(1年目) (過去3年間の平均値比較) ※アンケート内容：17・18頁参照	②肯定的な回答の割合 【参考数値】 ・小学校：72.6% ・中学校：69.0% ※質問紙調査3年平均 (全国学力)	②肯定的な回答の割合 ・小学校：90.2%(+37.7) ・中学校：96.4%(+37.7)	A

※評価方法①…A：+5ポイント以上、B：平均値以上、C：平均値未満、D：-5ポイント以下

※評価方法②…「基準評価」

4 成果と課題・改善策

- 参考実績ではあるが「坂町標準学力調査」では、全教科の平均値が全国平均値より2.5ポイント上回った。特に中3の英語においては、全国平均値を6.5ポイント上回った。児童生徒一人一人の課題や取組方針等を分析し、積極的な授業改善及び個に応じたきめ細かな指導を行った成果である。
- しかし、学年別では、小2・小4の平均値が全国平均値を下回っており、低学年からのつまずきや課題を明確にし、課題解決が求められる。
- 令和3年度では、「小学校低学年段階からの学ぶ喜びサポート校事業」でのサポート教員を配置し、低学年からの学習のつまずき解消等に向けた取組を行う。また、小学校専科指導(理科)や学校間連携(英語、算数)、指導方法工夫改善(算数)に係る加配を配置し、積極的な授業改善や課題等の明確化及び課題解決を図るとともに、取組の成果等を町内全校で共有し、個に応じたきめ細かな指導を更に充実させる。
- 主体的な学びの充実に係る肯定的な回答の割合(参考数値)は、小中学校とも高い。児童生徒の活動や意識が、学力向上に効果的につながる取組の分析・改善を図る。

令和2年度 点検評価票

中期経営目標	健やかな体の育成
短期経営目標	体力・運動能力の向上

1 具体的なねらい

心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する。

2 取組・方策

(1) 学校教育活動全体での取組
体力づくりを体育・保健体育科の授業はもとより、総合的な学習の時間、特別活動、部活動、始業前、昼休み、放課後等の教育活動全体で取組の充実、運動の日常化を図る。

(2) 坂町体力づくり研修の開催（3回／年）
小中学校合同の研修会において、各種データの分析や各校の取組等について情報交換し、体育主任の専門性や実践力の向上に努めるとともに、体力向上及び体育科授業等の工夫・改善を図る。

(3) 「体力づくり改善計画」の活用
全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果から明らかになった課題解決を図るため、各校が「体力づくり改善計画」を作成し、発達の段階に応じた運動の実践を行う。

3 評価指標・目標値・実績値・評価

評価指標	目標値	実績値	評価
○新体力テスト（全国値比較） 【テスト種目】※対象:小5、中2 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ボール投げ（中学校に「持久走」を加える）	○小中学校…体力合計点（実施年度数値比） ・小学校：40.5／60点 ・中学校：32.0／60点	○体力合計点 ・小学校：44点 （+3.5点、+8.6ポイント） ・中学校：34点 （+2.0点、+6.3ポイント） 【実施できたテスト種目】 握力、長座体前屈、反復横とび、50m走、立ち幅とび、ボール投げ	B

※評価方法 … 「基準評価」

4 成果と課題・改善策

○新型コロナウイルス感染症対策のため、上体起こし、20mシャトルラン（小学校）、持久走（中学校）については実施できなかった。

○実施できた種目は12種目で、小中学校・男女合計で24種目中、20種目で全国数値を上回ったが、合計点数では全国値比較+10ポイントを上回ることができなかった。これは、本町の児童生徒が毎年高得点を獲得する持久力種目が実施できなかったことが要因である。

○参考記録ではあるが「体力づくり改善計画」を活用した授業づくりや運動の日常化、部活動（中学校）の充実が、児童生徒の運動好きの増加や運動に対する意欲の向上につながっている。

○今後、1人1台のタブレット端末を活用し、自己目標の設定や記録への挑戦など、視覚化による意欲のさらなる向上に取り組み、体力・運動能力の向上を図る。

令和2年度 点検評価票

中期経営目標	生徒指導体制の確立
短期経営目標	積極的生徒指導の充実

1 具体的なねらい

一人一人の児童生徒の健全な成長を促し、児童生徒自ら現在及び将来における自己実現を図っていくための自己指導能力を育成する。

2 取組・方策

<p>(1) 坂町生徒指導連絡協議会（7回／年） 各小中学校の生徒指導主事を対象に、理論研修、授業観察、実態交流等を行い、生徒指導方針（基準の明確化）の共通理解を図り、指導力の向上及び生徒指導体制の機能化を目指す。</p> <p>(2) 「いじめアンケート」の実施（3回／年〔6・11・2月〕） 児童生徒及び保護者を対象にアンケートを実施するとともに、アンケート結果から個別面談を丁寧に行い、いじめの早期発見、早期対応、真の解決に努める。 ※いじめ未解決件数については、参考として示す。</p> <p>(3) 教育相談体制の確立 教職員に加えて、心理の専門家であるスクールカウンセラーや福祉の専門家であるスクールソーシャルワーカーを活用し、児童生徒の様々な情報の整理統合やアセスメント、支援計画等を早期に行い、教職員が組織的に支援できる体制を確立する。</p>
--

3 評価指標・目標値・実績値・評価

評価指標	目標値	実績値	評価
①規範意識・自己肯定感の醸成 ○坂町学びのアンケート調査(1年目) (過去3年間の全国質問紙調査平均値比較) ※アンケート内容：17・18頁参照	①肯定的な回答の割合 ・小学校：88.8% ・中学校：86.4% 【参考数値】	①肯定的な回答の割合 ・小：94.6%(+5.8) ・中：98.1%(+11.7)	A
②不登校の児童生徒数の割合 (過去3年間の全国・県調査の平均値比較)	②不登校の割合 ・小学校：全国0.57% ・中学校：全国3.33%	②不登校の割合 ・小：1.08%(+0.51) ・中：2.71%(-0.62)	B

※評価方法①② … 「基準評価」

4 成果と課題・改善策

<p>○年3回実施した「いじめアンケート」の結果から個別面談や聞き取り等を丁寧に行い、早期に発見し対応することが、いじめの未解決件数0件につながった。「チーム学校」として、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携し、教育相談体制の確立を図った成果である。</p> <p>○規範意識や自己肯定感に関するアンケート結果では、肯定的な回答が小学校は5.8ポイント上回り、中学校は11.7ポイント上回った。</p> <p>○不登校児童生徒数の割合は、小学校で全国平均値より0.51ポイント上回り、中学校では0.62ポイント下回った。また、小・中学校の平均値比較では、0.06ポイント下回った。小学校が高かった主な要因としては、新型コロナウイルスの影響で学校行事等が中止となり、学校生活に対する意欲の低下や感染等に対する不安などが考えられる。</p> <p>○今後の感染状況を踏まえ、学習内容や活動内容を工夫しながら可能な限り授業や部活動、各種行事等の教育活動を継続し、児童生徒の健やかな学びを保障する。</p> <p>○引き続き、学級担任や養護教諭を中心に児童生徒の心身の状況、人間関係、身なり、言動等を丁寧に観察するとともに、必要に応じてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを積極的に活用する。</p>

令和2年度 点検評価票

中期経営目標	安全教育の推進
短期経営目標	防災教育の充実

1 具体的なねらい

自他の生命尊重を基盤として、生涯を通じて安全な生活を送る基礎を培うとともに、進んで安心・安全な社会づくりに参加し貢献できるような資質や能力を養う。

2 取組・方策

- (1) 生活科・総合的な学習の時間を中心とした教育活動の充実
平成30年豪雨災害の経験や教訓を生かした防災教育を推進し、生涯にわたる防災対応能力の基礎を育成するとともに、復興に向けて心身ともにたくましく生き抜く力を育む防災教育を推進する。
- (2) 「人権教育総合推進地域事業」(国)の充実
自分や他者の人権を守ろうとする意識・意欲・態度の涵養が、自他の命を大切にし、思いやる力を育むとともに、防災教育における「自助」の力と「共助」の精神を育み、自他の命を守り抜くために必要な判断力・行動力を育成する。
- (3) 危機管理(防災)マニュアルの策定
防災に係る危機管理マニュアルを毎年改善し、全教職員で災害等に対する意識を高めるとともに、有事における体制整備の構築、推進に努める。

3 評価指標・目標値・実績値・評価

評価指標	目標値	実績値	評価
○坂町学びのアンケート調査(1年目) (過去3年間の平均値比較) ※アンケート内容: 17・18頁参照	○肯定的な回答の割合 ※新規指標のため、設定できない。	○肯定的な回答の割合 ・小学校: 91.5% ・中学校: 97.4%	—

※評価方法 … 「基準評価」

4 成果と課題・改善策

- 平成30年豪雨災害の経験や教訓を生かした防災教育の実施やハザードマップの作成、マイタイムラインを活用した取組により、9割以上の児童生徒が肯定的な回答をした。
- 新型コロナウイルス感染拡大による臨時休業の影響で、生活科や総合的な学習の時間の授業時数の削減、職業体験学習等の体験活動を中止せざるを得なかったが、学校生活における感染予防対策等の取組が日常的な学びとなり、自他の命を大切にし、思いやる力を育むなどの育成につながった。
- 今後は、「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」(県)の指定事業を活用し、生活科・総合的な学習の時間を軸とした取組を推進するとともに、研究推進リーダー教員を中心とした防災教育における単元開発を行い、自他の命を守り抜くために必要な判断力・行動力を育成する。

坂町学びのアンケート集計

実施日： 令和3年3月

実施校： 小学校

実施学年： 第6学年

実施人数： 118 人

1 「礼節」に関する質問	●肯定 529 人 89.7 %		肯定的回答		否定的回答	
	◆否定 61 人 10.3 %		人数	割合	人数	割合
(1) 約束の時間や自分で決めた時間を守ろうとしている。			110	93.2 %	8	6.8 %
(2) 心のこもったあいさつをしている。			104	88.1 %	14	11.9 %
(3) 物を大切にし、整理整頓をすることを心がけている。			99	83.9 %	19	16.1 %
(4) 学校への感謝の気持ちをもって、清掃することを心がけている。			106	89.8 %	12	10.2 %
(5) 相手に失礼のない言動を心がけている。			110	93.2 %	8	6.8 %

2 「道徳」に関する質問	●肯定 569 人 96.4 %		肯定的回答		否定的回答	
	◆否定 21 人 3.6 %		人数	割合	人数	割合
(1) 道徳の勉強は、ためになると思う。			114	96.6 %	4	3.4 %
(2) 道徳の授業では、自分の考えを伝えたり、他の人の考えを聞きながら、自分のことについて考えている。			112	94.9 %	6	5.1 %
(3) いじめは、どんな理由があっても許されない。			116	98.3 %	2	1.7 %
(4) 人の気持ちが分かる人間になりたい。			118	100 %		
(5) 道徳で勉強したことを自分の生活にいかそうとしている。			109	92.4 %	9	7.6 %

3 「郷土愛・グローバル」に関する質問	●肯定 472 人 80.0 %		肯定的回答		否定的回答	
	◆否定 118 人 20.0 %		人数	割合	人数	割合
(1) 自分の地域の行事に参加している。			102	86.4 %	16	13.6 %
(2) 地域や社会をよくするために、何をすべきかを考えることがある。			96	81.4 %	22	18.6 %
(3) 外国人と友達になり、外国のことについてもっと知りたい。			87	73.7 %	31	26.3 %
(4) 日本や坂町（地域）のことを外国人にもっと知ってもらいたい。			104	88.1 %	14	11.9 %
(5) 将来、国際社会で活躍したいと考えることがある。			83	70.3 %	35	29.7 %

4 「授業（学び）」に関する質問	●肯定 532 人 90.2 %		肯定的回答		否定的回答	
	◆否定 58 人 9.8 %		人数	割合	人数	割合
(1) 友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている。			113	95.8 %	5	4.2 %
(2) 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。			103	87.3 %	15	12.7 %
(3) 自分で課題を立てて、学習に取り組んでいる。			101	85.6 %	17	14.4 %
(4) 落ち着いて勉強することができている。			115	97.5 %	3	2.5 %
(5) 失敗しても学ぶことはおもしろい。			100	84.7 %	18	15.3 %

5 「学校生活」に関する質問	●肯定 558 人 94.6 %		肯定的回答		否定的回答	
	◆否定 32 人 5.4 %		人数	割合	人数	割合
(1) 学校での生活は楽しい。			116	98.3 %	2	1.7 %
(2) 今の学級の一員でよかった。			117	99.2 %	1	0.8 %
(3) 自分には、よいところがある。			96	81.4 %	22	18.6 %
(4) 学校のきまり（規則）や社会でのマナーを守ろうと意識している。			114	96.6 %	4	3.4 %
(5) 人が困っているときは、進んで助けようとしている。			115	97.5 %	3	2.5 %

6 「防災教育」に関する質問	●肯定 540 人 91.5 %		肯定的回答		否定的回答	
	◆否定 50 人 8.5 %		人数	割合	人数	割合
(1) 災害が起きた時に、安全な場所（避難所）がどこかを知っている。			111	94.1 %	7	5.9 %
(2) 地域で起こりやすい災害の危険性について理解している。			107	90.7 %	11	9.3 %
(3) 危険を予測して、自らの安全を確保したり、避難行動をとることができると思う。			104	88.1 %	14	11.9 %
(4) 他の人や地域の安全のために役立ちたいと考えている。			111	94.1 %	7	5.9 %
(5) 自分の住んでいる地域で災害が起きたら、ボランティア活動に進んで参加したい。			107	90.7 %	11	9.3 %

7 「情報教育（ICT）」に関する質問	●肯定 384 人 65.1 %		肯定的回答		否定的回答	
	◆否定 206 人 34.9 %		人数	割合	人数	割合
(1) 学校で、ほぼ毎日パソコンを使っている。			17	14.4 %	101	85.6 %
(2) パソコンを使った学習は、分かりやすくより内容が深まる。			104	88.1 %	14	11.9 %
(3) 文字入力やインターネットでの検索など、基本的なパソコンの操作ができる。			100	84.7 %	18	15.3 %
(4) 情報をコンピュータを使ってグラフにしたり、プレゼン発表したりすることができる。			48	40.7 %	70	59.3 %
(5) ネットワーク上のルールやマナー、法を守ることを意味や責任を理解している。			115	97.5 %	3	2.5 %

坂町学びのアンケート集計

実施日： 令和3年3月

実施校： 中学校

実施学年： 第3学年

実施人数： 117 人

1 「礼節」に関する質問	●肯定 573 人 97.9 %		肯定的回答		否定的回答	
	◆否定 12 人 2.1 %		人数	割合	人数	割合
(1) 約束の時間や自分で決めた時間を守ろうとしている。			116	99.1 %	1	0.9 %
(2) 心のこもったあいさつをしている。			115	98.3 %	2	1.7 %
(3) 物を大切にし、整理整頓をすることを心がけている。			110	94 %	7	6 %
(4) 学校への感謝の気持ちをもって、清掃することを心がけている。			116	99.1 %	1	0.9 %
(5) 相手に失礼のない言動を心がけている。			116	99.1 %	1	0.9 %

2 「道徳」に関する質問	●肯定 578 人 98.8 %		肯定的回答		否定的回答	
	◆否定 7 人 1.2 %		人数	割合	人数	割合
(1) 道徳の勉強は、ためになると思う。			113	96.6 %	4	3.4 %
(2) 道徳の授業では、自分の考えを伝えたり、他の人の考えを聞きながら、自分のことについて考えている。			115	98.3 %	2	1.7 %
(3) いじめは、どんな理由があっても許されない。			117	100 %		
(4) 人の気持ちが分かる人間になりたい。			116	99.1 %	1	0.9 %
(5) 道徳で勉強したことを自分の生活にいかそうとしている。			117	100 %		

3 「郷土愛・グローバル」に関する質問	●肯定 520 人 88.9 %		肯定的回答		否定的回答	
	◆否定 65 人 11.1 %		人数	割合	人数	割合
(1) 自分の地域の行事に参加している。			107	91.5 %	10	8.5 %
(2) 地域や社会をよくするために、何をすべきかを考えることがある。			101	86.3 %	16	13.7 %
(3) 外国人と友達になり、外国のことについてもっと知りたい。			102	87.2 %	15	12.8 %
(4) 日本や坂町（地域）のことを外国人にもっと知ってもらいたい。			109	93.2 %	8	6.8 %
(5) 将来、国際社会で活躍したいと考えることがある。			101	86.3 %	16	13.7 %

4 「授業（学び）」に関する質問	●肯定 564 人 96.4 %		肯定的回答		否定的回答	
	◆否定 21 人 3.6 %		人数	割合	人数	割合
(1) 友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている。			114	97.4 %	3	2.6 %
(2) 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。			114	97.4 %	3	2.6 %
(3) 自分で課題を立てて、学習に取り組んでいる。			109	93.2 %	8	6.8 %
(4) 落ち着いて勉強することができている。			114	97.4 %	3	2.6 %
(5) 失敗しても学ぶことはおもしろい。			113	96.6 %	4	3.4 %

5 「学校生活」に関する質問	●肯定 574 人 98.1 %		肯定的回答		否定的回答	
	◆否定 11 人 1.9 %		人数	割合	人数	割合
(1) 学校での生活は楽しい。			116	99.1 %	1	0.9 %
(2) 今の学級の一員でよかった。			115	98.3 %	2	1.7 %
(3) 自分には、よいところがある。			110	94 %	7	6 %
(4) 学校のきまり（規則）や社会でのマナーを守ろうと意識している。			116	99.1 %	1	0.9 %
(5) 人が困っているときは、進んで助けようとしている。			117	100 %		

6 「防災教育」に関する質問	●肯定 570 人 97.4 %		肯定的回答		否定的回答	
	◆否定 15 人 2.6 %		人数	割合	人数	割合
(1) 災害が起きた時に、安全な場所（避難所）がどこかを知っている。			112	95.7 %	5	4.3 %
(2) 地域で起こりやすい災害の危険性について理解している。			111	94.9 %	6	5.1 %
(3) 危険を予測して、自らの安全を確保したり、避難行動をとることができると思う。			115	98.3 %	2	1.7 %
(4) 他の人や地域の安全のために役立ちたいと考えている。			116	99.1 %	1	0.9 %
(5) 自分の住んでいる地域で災害が起きたら、ボランティア活動に進んで参加したい。			116	99.1 %	1	0.9 %

7 「情報教育（ICT）」に関する質問	●肯定 449 人 76.8 %		肯定的回答		否定的回答	
	◆否定 136 人 23.2 %		人数	割合	人数	割合
(1) 学校で、ほぼ毎日パソコンを使っている。			37	31.6 %	80	68.4 %
(2) パソコンを使った学習は、分かりやすくより内容が深まる。			107	91.5 %	10	8.5 %
(3) 文字入力やインターネットでの検索など、基本的なパソコンの操作ができる。			109	93.2 %	8	6.8 %
(4) 情報をコンピュータを使ってグラフにしたり、プレゼン発表したりすることができる。			81	69.2 %	36	30.8 %
(5) ネットワーク上のルールやマナー、法を守ることの意味や責任を理解している。			115	98.3 %	2	1.7 %

令和2年度 点検評価票

中期経営目標	地域文化の保存、継承
短期経営目標	坂町の歴史や文化に対する理解と関心の醸成

1 具体的なねらい

町民の郷土に対する歴史的理解を深めるとともに、後世へ文化を継承し、町民の文化意識の向上と町勢発展に努める。

2 取組・方策

(1) 主催行事等の充実とアンケート調査

坂町主催の各種行事等において、坂町の文化・歴史に対する関心が高まる内容を取り入れるとともに、事後アンケート調査を実施する。

- 「坂町を知ろう」、「ようよう坂町ウォーキング」、「坂町悠々健康ウォーキング」、「坂町文化祭」、「芸術文化啓発事業」

(2) 坂町史の活用

歴史探索に関する事業等で活用する。

新入教職員・職員の研修会や学校等にチラシを配布し、販売促進を図る。また、関心の高揚を図るため、広報において記事を継続的に紹介する。

(3) 小中学生と自主グループの交流

町内で文化的な活動を行う自主グループと協力し、小中学生を対象に後世へ文化の継承を目的とした体験会を定期的に開催し、若い世代に文化と接する機会を作る。

3 評価指標・目標値・実績値・評価

評価指標	目標値	実績値	評価
①関心・意欲に関するアンケート調査 (過去3年間の平均値比較)	①肯定的な回答の割合 ・80%	①肯定的な回答の割合 ・83.3%(+3.3)	B
②行事に対する満足度調査 (過去3年間の平均値比較)	②肯定的な回答の割合 ・80%	②肯定的な回答の割合 ・95.8%(+15.8)	A

※評価方法①②…「基準評価」

4 成果と課題・改善策

○新型コロナウイルスの影響で、多くのイベントを中止した。開催できたイベントは「坂町を知ろう」、「ようよう坂町ウォーキング」のみであった。

○限られたイベントによる評価ではあったが、開催できたイベント終了時のアンケート調査結果では、関心・意欲に関する調査が3.3ポイント、満足度の調査が15.8ポイントといずれも目標値を上回った。

○坂町史の活用については、「ようよう坂町ウォーキング」のコースに坂町史に掲載されている史跡を取り入れ、休憩時等に史跡の案内や説明を行った。参加者は、興味深く熱心に耳を傾けていた。町史に係る興味・関心の高揚には効果的であったが、坂町史の販売促進までには至っていない。

○小中学生と自主グループとの交流は、新型コロナウイルスの影響で中止した。

○Web配信等、コロナ禍におけるイベントの在り方について検討していく。

令和2年度 点検評価票

中期経営目標	生涯学習環境、生涯学習推進体制の充実
短期経営目標	図書館サービスの向上

1 具体的なねらい

町民に必要とされる図書館を目指し、ニーズと時代の変化に対応しながら、町民の自主的な学習・文化・余暇活動を支援する。

2 取組・方策

- (1) 読書週間に合わせた「図書館こどもまつり」の開催
 町立図書館と小屋浦ふれあいセンターにおいてボランティアによる読み聞かせ、職場（図書サービス）体験、ミニ絵本づくり等を行う「図書館こどもまつり」を開催し、子供たちが読書の楽しさを知るきっかけを作り、読書体験を深めるような機会を提供する。
- (2) 「図書館だより」の充実・配信の工夫
 年代に応じた「図書館だより」を作成し、定期的に配布する。また、多くの関心を引き付けるため、SNS等を活用した情報発信を効果的に活用する。
- (3) 関係機関との連携
 保険健康課と連携し、乳児健診等を実施する際に育児等に関する移動図書館を設置するサービスを図り、育児支援及び読書活動を推進する。

3 評価指標・目標値・実績値・評価

評価指標	目標値	実績値	評価
①図書等貸出冊数 (「日本図書館協会調査」との比較)	①53,053冊 (全国町村：過去5年の平均値)	①48,876冊 (-7.9ポイント)	C
②年間一人当たりの貸出冊数 (「日本図書館協会調査」との比較)	②4.12冊/年 (全国町村：過去5年の平均値)	②3.80冊/年 (-7.8ポイント)	C

※評価方法①②…A: +5ポイント以上、B: +5ポイント未満・-5ポイント未満、C: -5ポイント以下・-9ポイント以上、D: -10ポイント以下

4 成果と課題・改善策

○図書等貸出冊数は7.9ポイント、年間一人当たりの貸出冊数は7.8ポイント目標値より下回った。主な要因としては、新型コロナウイルスの影響で「図書館こどもまつり」等の事業の中止や閉館日数の増加、開館時においても制限された運営などで利用者が減少し、図書等貸出冊数にも影響した。

○コロナ禍ではあったが、今年度開館15年を迎え、入館者数100万人を達成した。100万人目の来館者に記念品授与式を行うとともに広報や新聞に掲載し、図書館について広く情報発信した。

○関係機関との連携事業として「はじめての絵本事業」を計画していたが中止した。新型コロナウイルスの影響で、計画していたような読書活動を推進することは困難であった。

○豪雨災害以降の入館者の減少やコロナ禍における「新しい生活様式」により生ずる課題等を踏まえ、各種事業の内容を精査するとともに、Web配信を実施する等の状況に応じた新たな取組の創出及び工夫・改善を図る。また、ネット予約サービス（令和2年度）や電子図書の活用など情報環境の利便性の向上を広く住民に周知し読書活動の推進に努める。

令和2年度 点検評価票

中期経営目標	生涯スポーツの推進
短期経営目標	生涯スポーツ社会の実現

1 具体的なねらい

町民誰もが、それぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現を目指す。

2 取組・方策

(1) 各種教室の充実とアンケート調査

各種教室でスポーツへの関心・意欲、健康増進への意識が高まるよう内容を工夫・改善し、事後アンケート調査を実施する。

○親子ふれあい体操教室、親子ふれあい水泳教室、小学生水泳教室（1年、2・3年生）

(2) 各種教室・大会等の情報発信

坂町広報誌やホームページ等への掲載及び関係機関等との連携を図り、町内外へ積極的に情報発信する。

○幼児・小学生を対象とした各種教室

○復興に向けて町民に活気と勇気を与える復興イベント

○町内体育大会、広島ベイマラソン大会等

(3) 軽スポーツの普及

スポーツ推進委員へカローリング等、軽スポーツの普及活動の協力要請を行い、軽スポーツの普及に努める。

3 評価指標・目標値・実績値・評価

評価指標	目標値	実績値	評価
①各種事業のアンケート調査 (過去3年間の平均値比較)	①肯定的な回答の割合 ・87%	①肯定的な回答の割合 ・100%	A
②各種大会の満足度調査 (過去3年間の平均値比較)	②肯定的な回答の割合 ・80%	②肯定的な回答の割合 ・100%	A

※評価方法①②…A:目標値以上、B:-10ポイント未満、C:-10ポイント以下・-19ポイント以上、D:-20ポイント以下

4 成果と課題・改善策

○新型コロナウイルスの影響で、送迎車内で密になる小学生水泳教室や、大規模開催である町内体育大会・ベイマラソン大会は、開催の中止を余儀なくされた。一方、「親子ふれあい体操教室」「親子ふれあい水泳教室」については、募集人数が少なく感染リスクも低いため、消毒や三密等の感染対策を講じて開催することができた。

○各スポーツイベントや教室など、今後も続くコロナ禍において、町民の健康を考えながら開催できる方法を模索することが、今後の課題となる。

○各種教室・大会等の情報発信では、「広報さか」を通じて町民のスポーツ活動に対する意識の啓発、参加促進に努めたが、SNS等を活用した発信が不十分であった。今後は、ホームページやFacebook等にもスポーツイベントの開催案内を掲載するなど、積極的な情報発信に努める。

令和2年度 点検評価票

中期経営目標	ウォーキングの推進
短期経営目標	「坂町悠々健康ウォーキング大会」の充実

1 具体的なねらい

ウォーキングを通じて健康でたくましい「こころ」と「からだ」をつくり、悠々とした心豊かな生活や郷土愛の醸成、地域の活性化を目指す。

2 取組・方策

(1) 「坂町悠々健康ウォーキング大会」の情報発信
 坂町広報誌やホームページ等への掲載及び関係機関等との連携を図り、町内外へ積極的に情報発信する。また、小中学校や住民協へ依頼し、大会案内を各世帯へ配布する。
 さらに、前回大会の参加者及びふるさと納税者には、早めに個別で大会案内を送付する。

(2) 大会運営の工夫・改善
 前回大会の反省点を改善し、大会の更なる充実に努める。
 ○配膳箇所を増やし、カキ雑炊の待ち時間の短縮を図る。
 ○アンケートの回収率を高めるため、ゴール地点付近で実施する。

(3) 活気とにぎわいの取組
 他課等との連携を密に行い、大会内容の充実に努める。
 ○保険健康課：身長・体重、血流、握力、瞬発力、脳年齢・ストレスチェック等各種測定
 ○食生活改善推進協議会：食に含まれる糖分の展示・野菜の摂取促進等指導
 ○坂町女性会連絡協議会：カキ雑炊、おでん等

3 評価指標・目標値・実績値・評価

評価指標	目標値	実績値	評価
①「坂町悠々健康ウォーキング大会」参加人数 ※1,200人の参加人数を基準値とする。	①参加人数 ・1,200人	中止	—
②満足度アンケート（過去3年間の平均値比較）	②肯定的な回答の割合 ・80%	中止	—

※評価方法①②…A:目標値以上、B:-10ポイント未満、C:-10ポイント以下・-20ポイント以上、D:-20ポイント以下

4 成果と課題・改善策

○新型コロナウイルスの影響で中止した。
 ○令和3年度大会についても、新型コロナウイルスの影響により通常開催は困難な状況が予想され、また大会内で実施してきた保険健康課による各種測定や坂町女性会連絡協議会によるカキ雑炊等の給食などのイベントについても難しい状況である。今後、ウォーキング大会の開催の在り方や新しい魅力的なイベント等について、実行委員会や関係団体、関係各課等と検討・協議を行う。

令和2年度 点検評価票

中期経営目標	生涯学習施設の有効活用
短期経営目標	町民交流センターの活用促進

1 具体的なねらい

町民に親しまれ、スポーツ・文化活動の交流拠点として広く活用されるよう、関係機関と連携・協力し、利用促進に努める。

2 取組・方策

<p>(1) 各種（主催）イベントの開催</p> <p>目的を明確にし、町民の元気と意欲を高め、豊かな生活を送ることができる各種イベントを開催する。</p> <p>○NHKのど自慢（5月10日） ※中止</p> <p>○坂町平和音楽祭（9月12、13日） ※中止</p> <p>○その他（ピアノ試弾会、歌声サロン、映画上映会等開催予定） ※中止</p> <p>(2) 積極的な情報発信</p> <p>ホームページや坂広報誌等への掲載や関係機関等と連携し、町内外への情報発信に努め、利用が見込まれる企業、学校関係のリストアップ行い、チラシやDMを配布するなどの利用促進を図る。また、Facebookなどのソーシャルメディアを活用し、更なる利用促進に努める。</p> <p>(3) 地域に密着・開かれたホール運営</p> <p>誰もが気軽に利用できる施設運営に努め、来館者へのアンケート調査を実施し、意見を反映させる。</p> <p>○交流スペースの開放、明るいロビー、音楽やDVDの常時放送などの工夫をする。</p>

3 評価指標・目標値・実績値・評価

評価指標	目標値	実績値	評価
①施設利用人数（過去3年間の平均値比較）	①55,669人	①33,384人（-40.0ポイント）	D
②Facebookアクセス数（過去3年間の平均値比較）	②2,456件	②3,218件（+31.0ポイント）	A
③満足度アンケート（過去3年間の平均値比較）	③78.2%	—	—

※評価方法①②…A: 目標値以上、B: -10ポイント未満、C: -10ポイント以下・-19ポイント以上、D: -20ポイント以下

※評価方法③…「基準評価」

4 成果と課題・改善策

<p>○施設利用人数は、目標値より40.0ポイント下回った。主な要因は、大雨等による避難所開設や新型コロナウイルスの影響によるイベントの中止、各団体の活動自粛が余儀なくされ、当初300日の開館予定日数が200日しか開館できなかったことである。次年度においても新型コロナウイルスに係る環境の変化や国・県の動向を的確に把握し、行事やイベント等の目的や効果、安全性を再検討する。</p> <p>○Facebookのアクセス数は順調に増加し、目標値より31ポイント上回った。コロナ禍においても継続的にSNS発信を行ったことが主な要因である。今後もイベント情報やトピックス等を適宜アップするとともに、インスタグラム等を新規で開設し、更にアクセス数の増加を図る。</p> <p>○地域に密着・開かれたホール運営については、新型コロナウイルスの影響でイベント来館者からのアンケート調査が実施できなかったが、今後の事業開催を検証する上でも重要であることから、イベント開催時以外でも随時実施し、施設利用者の声に直接耳を傾けることで誰もが気軽に利用できる施設運営に努める。</p>
--